

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大阪教育大学附属高等学校池田校舎 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 577 - 0007

大阪府池田市緑丘1-5-1

E-mail _____

Website _____

幼児児童生徒数 男子 232名 女子 260名 合計 492名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は2003年度から継続的にASPnet校として新しい学習の開発に取り組んできた。その前身には98年度より取り組んできた国際教育がある。「『共生』と『相互依存』をめざす知識・思考・態度・技術など」を総合して「国際的資質」とし、その獲得を各教科や教科横断型の総合的な学習の中で実現しようとしたものである。ESDの概念ではその時間軸がより鮮明となり、未来に向けた指向性を明確にする必要があった。そこで、SD社会を創造する主体者として取り組むべき課題と備えるべき資質を図1のように整理し、目指すべき生徒像を明確にして学習活動を進めた。

具体的には①1・2年生での総合的な学習の時間(1年総合Ⅰ・1単位、2年総合Ⅱ・2単位)でESDを中心テーマとした授業を展開し、その学習を柱に②海外の学校との学びの交流、③大阪ASPnetでの国内および海外の学校との学びの交流を行った。

なお、今年度の本校の組織目標の中に以下の2点を含めている。

- ・グローバル化した社会で生きる力の育成を目指して国際教育を推進する。
- ・ユネスコスクールとして、国内外の高等学校との共同実践に努める。

① 総合的な学習の時間

今年度の総合Ⅰ・Ⅱでは、ESDの深化をはかるため、批判的思考力と多角的なもの見方に着目し、国際バカロレア、ディプロマプログラムのTOK(知の理論)の内容を積極的に取り入れた。総合Ⅰは5科目8名の教員で教科横断的に担当し、世界の諸問題を学んだ。最終的なポスターセッションでは、SDGsのどの部分に狙いを定めた発表なのかを明確に示すこととした。総合Ⅱは6科目9名の教員で担当し、地球規模の諸問題を身近な諸問題と関連付けて学ぶこととした。また、社会の問題を発見する能力に着目し、琵琶湖・淀川水系に関わる自然や人々の文化、暮らしの中からSDに関わる課題を発見し、その解決策を創造する学びに取り組んだ。

② 海外の学校との学びの交流

- ・ 韓国サンダン高校とは毎年学びの交流を行っている。今年度は1・2年生の生徒8名が4泊5日の日程で訪韓した。上記総合Ⅰ・Ⅱの学びを発表するESD交流や世界遺産共同学習、伝統文化学習、授業参加、2日間のホームステイなどで深い学びの交流を目指し、成果を挙げた。これまで学び合ってきた日韓の生徒たちの関係は卒業後も続き、幅広く時間を越えた学びへと繋がっている。
- ・ バルト海プロジェクトに参加しているリトアニアのジャミナ高校の生徒4名と教員1名を5泊6日の日程で招いた。バルト海プロジェクトの紹介や本校の総合Ⅱの学びの発表などでESD交流を行い、地球環境問題に関するパネルディスカッションなどを試みた。その他は上記サンダン高校の交流と同様に京都世界遺産学習や授業、課外活動参加、ホームステイなどで交流を深めた。
- ・ バルト海プロジェクトに参加しているスウェーデンナッカ高校の教員10名を招き本校の取り組みについて意見交換をした。またゲスト教員は総合Ⅰの授業に参加し、生徒が取り組んでいる諸問題についても生徒と意見交換をした。

③ 大阪 ASPnet での国内および海外の学校との学びの交流

大阪 ASPnet16校の児童・生徒約70名が、中国の小学生、高校生を招き、学びの交流を行った。その学びの交流の準備として6回の準備セミナーを計画し、国内の児童生徒がESDの学びを深めた。同じ事前学習は中国の児童生徒も行っており、深い学びの交流が実現する基礎となっている。



①総合Ⅱグループ学習の風景



②韓国サンダン高校との世界遺産学習



②リトアニア生徒とのディスカッション



③日中ESD国際ワークショップ(大阪 ASPnet)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

参考文献	
「知の理論 Theory of Knowledge」	オックスフォード出版
「知の理論をひもとく」	伊藤印刷(株)出版部
その他	

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学校としての組織目標の中に国際教育を位置付けている。1年生の総合的学習の時間1単位、2年生の総合的学習の時間2単位をESD、SDGsをテーマに進めている。担当教員1年8名、2年9名でそれぞれチームをつくり、国際教育委員のコーディネーターとともに、年度当初に目標と年間計画を立て、計画的に進めている。総合的学習の時間での学びは、海外のユネスコスクール校との学びの交流でもその基礎となる。海外ゲストとの交流は一部の生徒が行うのではなく、1・2年生全員で迎え、授業やホームルーム、世界遺産協同学習ツアー（希望者）、ホームステイ、課外活動などで幅広い活動をしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・校務分掌の中に7名の教員による国際教育委員会を設け、ASPnetの活動や総合的な学習の時間のコーディネーターを務めている。
- ・計3単位時間の総合的学習の時間のメインテーマをESDに定め、上記コーディネーターと総合担当教員連携のもと、年度当初に計画を立てている。
- ・海外ASPnet校との定期的な学びあいの場を設けている。
- ・入学生徒の中に国際枠を設け、様々な背景を持った帰国生徒を受け入れている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・公開授業研究会での定期的な発表
- ・本校の取り組みを国内ASPnet校や海外ASPnet校に発信し、協議
リトアニア ジャミナ高校やスウェーデン ナッカ高校から、バルト海プロジェクトへの取り組みやその考え方を共有することができた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

大阪 ASPnet で、ESD 国際ワークショップとその準備セミナーによる教員実践臨場研修を実施した。また ASPnet 校同士で学校での取り組みを共有し、自身の学校の活動に反映している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ・大阪 ASPnet による ESD 国際ワークショップとその準備セミナーによる教員実践臨場研修は、大阪府教育庁、奈良県教育委員会との共催、大阪市教育委員会の協力を持って開催された。その実施は大阪府立大学が主導的な役割を担い、参加各校のコーディネーターと協議を重ねながら運営された。
- ・東近江市市民環境部森と水政策課や滋賀県庁で環境行政に携わる方の支援を得て、琵琶湖淀川水系に関わる文化、生活、環境、経済などにおける SD 課題に向けた探求的学習を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ・韓国サンダン高校との学びの交流(毎年実施、4泊5日で訪韓)
- ・リトアニア ジャミナ高校との学びの交流(5泊6日で来校)
交流の枠組みを検討中
- ・スウェーデン ナッカ高校教員との交流(1日)
- ・日韓教員交流事業韓国教員受け入れと情報交換(30名)
- ・大阪 ASPnet での学びあい(17校+中国 ASPnet 校2校)
中国 ASPnet 校と協同でプログラムを実施した。12月の国際ワークショップ開催までに6回の準備セミナーを計画し、持続可能な未来を共創的に考えるために必要な考え方、態度、振る舞いを学び合った。

- ⑧ ユネスコスクール活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

ASPnet 活動によって築かれた国内外とのネットワークが交流終了後も継続し、海外生徒と連絡を取り合い、情報交換をしている例もみられる。また、大学生になっても大阪 ASPnet の活動を支援してくれる学生も多い。ASPnet の活動で学んだ経験を持つ教員も増え、活動が国内外で立体的な広がりを見せている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 11月上旬に韓国サンダン高校を招き、4泊5日の日程で学び合いを実施
お互いのESDの学びをプレゼンで交換し、持続可能な開発目標(SDGs)へ向けたディスカッションなどでESDの深化を目指す。また、世界遺産共同学習、授業参加、課外活動、ホームステイでの交流を行う予定。
- ・ 大阪ASPnet校との学びの交流とESD国際ワークショップの実施
現在計画中で、企画運営にも参加予定。学齢、発達段階、学校、地域、国の違いなど、背景となる文化の違いそのものが学びの対象になる。ESDとは何か、またSDGs達成に向けた地球市民的な資質とは何か、などを参加型のワークショップで学び合う予定。
- ・ リトアニア ジャミナ高校との学び合い(計画中)
- ・ ESD、SDGsをテーマにした教科横断型で総合的学習を実施。1年生1単位、2年生2単位で、年間を通じた学習。